

## ロシア史研ニューズレター

ОБЩЕСТВО ИССЛЕДОВАТЕЛЕЙ ИСТОРИИ РОССИИ

No. 69

February 2008

## 2007 年度大会閉幕：新委員会発足



(写真は 2007 年度大会 1 日目共通論題の様様)

昨年11月10日（土）・11日（日）に早稲田大学で開催された2007年度大会は、盛況の内に無事終了いたしました。会員の皆様の御協力に深く感謝いたします。

**2007 年度総会について**

2006/07 年度（2006 年 9 月～2007 年 8 月）の入会者数が 15 名、退会者数が 13 名、さらに 2007/08 年度の入会者数が 1 名、退会者数が 1 名で、2007 年 11 月 10 日時点での会員数は 274 名（うち休会中の会員 4 名を含む）でした。総会成立のための定足数は正会員の 5 分の 1 にあたる 55 名ですが、当日の出席者数が 62 名、欠席ながら委任状を提出された会員数が 41 名ということで、総会は無事開催されました。

総会では、冒頭で青木恭子氏（富山大学）を議長に選出した後、土屋好古事務局長による会務報告、会計担当の崔在東氏による 2005/06 年度会計報告、監事の佐々木照央氏による会計監査報告、中嶋毅編集長による『ロシア史研究』編集状況の報告、委員の多選制限に関するロシア史研究会規約改正案の承認、次期委員会委員選挙、など

が行われました。なお会計報告に関しては、無利子の郵便振替口座にかなりの額が預金されているため、当座の運用に差し支えない程度の額を銀行の定期預金に振り替えてはどうかとの提案、また長期的に黒字が続くのであれば、何か大きな事業を行なうか、あるいは会費を値下げするかといった点について今後検討すべきとの意見などが出されました。規約改正案については異議なく承認されましたが、規約テキストの一部に形式的観点からやや体裁の悪い個所があるので、長期的に検討してほしいとの意見も出されました。

委員選挙では、浅岡善治氏（福島大学）と吉田俊則氏（富山大学）を選挙管理委員に選出した後、当日出席者による投票において、委員として内田健二、梶雅範、加藤史朗、加納格、鈴木義一、立石洋子、崔在東、土肥恒之、中嶋毅、半谷史郎、監事として塩川伸明、長縄光男の諸氏が選出されました（五十音順）。

最後に、JCREES 事務局長の松里公孝氏から、2010年7月にストックホルムでの開催が予定されている国際中欧・東欧学会（ICCEES）第8回世界大会への参加計画について、説明がなされました。2015年に予定される第9回世界大会の日本開催を見据えた動きとのことであり、会場からも各種の意見が活発に交わされました。ちなみに、第8回大会開催に関する立候補決定の期限は2009年6月とのことです。

#### 2006/07 年度ロシア史研究会会計報告（2006.9.1～2007.8.31）

前年度繰越	定期貯金	1,354,000		
	銀行口座	62,479		
	振替口座	3,651,925		
	現金	245,528		
			合計	5,313,932
2006/07 年度収支				
収入	正会員会費	1,955,500	(A 会員：1,167,500、B 会員：788,000)	
	雑誌会員	145,500		
	雑誌売上	136,578	(国立情報学研究所を含む)	
	広告収入	150,000		
	銀行利子	192		
			合計	2,387,770
支出	大会関連費	63,799		
	例会関連	30,000		
	NL 関連	210,394	(63・64・65・66号)	
	雑誌印刷・発送	890,000	(79・80号)	
	雑誌発送	19,996		
	名簿関連	63,976		
	通信費	92,676		
	学会会費（ジエイクリーズ 30,000）	30,000		
	その他（事務用品など）	7,424		
			合計	1,408,265

大会関連費（06/07年度） -63,799

収入

非会員参加費 2,500  
懇親会費 306,000  
明治大学補助金 100,000  
祝い金 30,000（日ソ30,000）  
雑誌売上 1,100  
計 439,600

支出

バイト代 64,000  
事務 6,098  
懇親会費 250,000  
謝礼 30,000  
会場代 153,301  
計 503,399

次年度繰越

定期貯金 1,354,000  
銀行口座 219,055  
振替口座 4,678,425  
現金 41,957

合計 6,293,437

前年度繰越+収入=支出+次年度繰越= 7,701,702

本頁は、一般公開のために編集されました（2018年10月14日）。  
会計監査委員による監査の結果、問題ないことが承認されたことが掲載されています。また、会計監査報告原本は、事務局に保管されています。

## <2007年度大会印象記>

### 2007年度大会参加記

吉田俊則（富山大学）

諸般の事情で大会を欠席し続け、今年三年ぶりに出席したこと、また、私の専門とする前近代史の報告がなく、どちらかといえばむしろ馴染みの少ないテーマを選んで報告会場を選択したことなどのために、私には新鮮な印象を残した大会であった。総会の議論でさえも興味深く聴くことができた。

初日はA会場で二つの報告を拝聴したのち、全体報告を聴き、翌日はB会場からA会場と回って、失礼ながら、午後の全体報告は所用で欠席した。

ロシア史研の大会は、いまどきの学会にしては珍しく、ひとつひとつの報告に十分な時間が当てられ、その分緻密な報告を聴くことができる。報告本数を稼ぎ、多彩さ

を全面に押し出す方向ではなく、個々の報告を丁寧に扱うのは、学会報告の実質を維持するために重要な要素と思われる。二日間の大会日程を拡大もしない限り、現在の報告本数と報告時間は限界であろう。報告の丁寧さというロシア史研の貴重な伝統が失われていないことを、今回再認識させられた。

報告のテーマは多くが個別性と専門性が高く、そのテーマそのものを、あるいは少なくともその周辺を研究している研究者でなければ、なかなかコメントが難しいものと思われた。それでもなお活発な議論が行われ、しばしば時間切れとなっていたのは、研究の趨勢そのものが現代史にシフトしていることの反映であろうか。

こうした報告では、報告者と会場を結ぶ媒介として、コメンテーターの役割が重要であろうと思う。私の聴いた会場でも、コメンテーターの方はときに鋭い指摘と疑問を呈することがあった。「貴重なご指摘」に感謝するという礼儀正しい対応の次にしばしの激論か、と思われた瞬間が何回かあったが、いずれの場合にも何ごともなく先に進んでいった。率直に言えば、少しだけ肩すかしの印象を抱いた。とはいえ、いずれの報告も、私のような「門外漢」にも大変興味深く、刺激を与えてくれるものであったことは、最後に申し述べておきたいと思う。

## 大会印象記

巽 由樹子（東京大学大学院）

2007年のロシア史研究会大会は、例年より少し遅く、十一月二週目の週末に早稲田大学で開催された。両日とも、午前は二会場ですべての個別報告、午後は大教室でパネル報告を聞くという日程だったが、ここではそのうち特に印象に残った、一日目午前の個別報告と、二日目午後のパネルについて触れたい。

一日目午前には極東に関する報告が続いた。麻田雅文さんの報告は、中東鉄道が大連からウラジオストクに中心を移すという経営戦略を取るに際して、沿線経済圏の構想があったことを見出しつつ、しかし地域間の利害衝突がその達成を妨げたと丹念に論じたもので、聞き応えがあった。一方で、フロアから出た、ミクロな地域史研究をいかにマクロな視点につなげていくかという質問もまた頷かれるものであった。その点で、続く竹中浩先生の報告は示唆に富む。それは、極東の朝鮮人労働者の問題を、モスクワでの、そしてさらにヨーロッパでの黄禍論という大きな思潮の中に置くことによって、大きな枠組みを設定しようとする。極東の現地行政機関は、黄禍のような漠然としたものではなく具体的な社会問題に直面していたのではないかと、とのフロアからの疑問が説得力を持つ一方で、細かなものに埋没しないための見取り図を設定するという構想は大変刺激的であった。

ロシアを同時代の西欧の思潮の中に位置づけることで大きな枠組みを設定するという手法は、二日目午後のパネル「十九世紀のロシア」においても用いられたものであった。ここではとりわけ橋本伸也先生の報告が、ヨーロッパ的知がウクライナに人文主義の成立を促したもののモスクワでの本格的受容は進まなかったこと、こうした背景から、ロシア帝国は西進してヨーロッパ型大学を内包するにあたっては学問を独自に制度化したことを指摘し、更に、それらがロシアにおける西欧的市民社会不在の一因となった可能性に触れるなど、興味深いものだった。

ただしパネルのテーマ設定には、やや曖昧さがあったのではないかとと思われる。目的が不明確であるとの指摘を受けた一日目のパネルにつづき、二日目もまた、この夕

イトルで何を意図しているのか、内容構成がはたしてロシアの十九世紀性を問題にできているのか、との疑問の声があがっていた。パネル企画は提案が少なく、委員会がご苦労されたと聞く。例年春に送付されるアンケート用紙を前に、一会員としてもう少しあれこれ考えてみるべきかもしれない。

## 新委員会の構成

2007年度総会の際に実施された委員選挙をうけ、12月22日(土)に新旧委員会の引継ぎを行いました。新委員会の構成と役割分担は以下の通りです。

委員長： 土肥恒之

事務局

・事務局長： 鈴木義一 ・総務： 野部公一 ・会計： 崔在東

・名簿： 半谷史郎 ・ニューズレター： 梶 雅範

雑誌編集： 中嶋毅(編集長)、立石洋子

企画： 加藤史郎、加納格、サヴェリエフ・イゴリ(大会担当)

例会： 内田健二

新事務局は東京外国語大学外国語学部 鈴木義一研究室に置かれます。

連絡先は〒183-8534 東京都府中市朝日町 3-11-1 東京外国語大学外国語学部 鈴木義一研究室気付になります。

## 新委員長挨拶

土肥恒之

師走も末の冷たい雨の日の夕刻におこなわれた新旧委員の事務の引継ぎから、すでにひと月が過ぎました。また年も改まりましたが、なかなか「前向き」な展望をかたる心境にはなれないというのが正直なところです。自己紹介を兼ねてロシア史研究会への私の関わりを手短かに記すことで、「あいさつ」に代えたいと思います。

私が研究会に入会したのは、少なくともそう自覚しているのは、「ソヴィエト・ロシアの農民」というテーマを掲げた1983年度の大会で、報告者の一人となった時のことです。その三ヶ月ほど前に田中陽児先生から分厚い説得の手紙をいただき、多少の不安を抱きながらなんとか報告を済ませました。当時は土曜日(あるいは日曜日?)一日だけの大会で、翌年は「ツアーりとツアーリズム」というテーマでした。このときは大会の数日前になって、委員会の方から鳥山成人先生の報告にコメントせよという命令が下りました。これは報告以上に荷が重く、しかも今のように予め報告要旨が配布されているわけではありません。当日午前の鳥山報告を最前列で必死にノートを取りながら聞き、昼休みに近くの喫茶店に籠って午後の討論のためのコメントを作成したという記憶があります。お二人ともにすでに故人となられ、若い世代には名前を知るだけという方もおられるかと思いますが、大会を契機にはじまった両先生との交流はわたしにとってかけがえのないものとなりました。

それ以来、すでに四半世紀という長い時間が経ちました。大会は二日間となり、テーマも報告もより細かくなりました。1999年には「登録学術団体」となって、名実ともに学会となったことになります。この間私自身も何度か報告とかコメントに関与したことがあります。また委員に選ばれたこともありますが、いずれも消極的でした。加えて近年は体調が芳しくないこともあって大会の欠席が続いておりました。ですか

ら委員会の運営にはまったく不案内ですが、それを補ってあまりある有能な委員スタッフが揃っております。私としては塩川前委員長のご示唆にしたがって、五十年を過ぎたロシア史研究会のアルヒーフの作成、つまり資料蒐集に向けて一歩でも踏み出せたらと漠然と考えているところです。会員の皆様のご協力を心よりお願いする次第です。(22. 01. 2008)

### 新委員会の紹介（五十音順）

- ① 所属 ② 連絡先 ③ 専門分野 ④ 抱負 ⑤ 各担当事項に関する連絡

※一般公開のために、一部削除編集を加えました（2018年10月14日）。

内田健二（例会担当）

- ① 大東文化大学法学部

②

ソ連政治史

- ③ お役に立てないと思いますが、よろしく願いいたします。

- ④ 例会担当となりました。研究発表を希望される方は是非ともご連絡下さい。

梶 雅範（ニューズレター担当）

- ① 東京工業大学大学院社会理工学研究科

②

- ③ 科学史とくにロシア科学史、日本科学史

- ④ 初めてでまだ慣れていませんが、よろしく願いします。

- ⑤ ニューズレターは年四回の発行です。会員の方たちの最近の著作などの情報をお寄せ下さい。会員の方の自由投稿も歓迎します。

加藤史郎（企画担当）

- ① 愛知県立大学外国語学部

②

- ③ 18 世紀・19 世紀のロシア社会思想とゲルツェン

- ④ 今年度の大会は、愛知県立大学で行う予定です。大会の成功が、地方大学におけるロシア語やロシア関連講座の減少に少しでも歯止めの役割を果たせば、と密かに期待しております。

- ⑤ 大会企画に関するご意見や報告のご希望などをメールでどんどんお寄せ下さい。

加納 格（企画担当）

- ① 法政大学文学部

②

- ③ ロシア近現代史。関心を持っているのは、帝政末期、ソ連末期の改革、亡命後のロ

シア・リベラル、日露戦争の政治過程。

⑤例会の報告希望を募ります。仕上がったものだけでなく、こう考えているが、皆さんの意見を聞きたいという内容のものまで積極的に手をお挙げください（といってもやりにくいのはわかります。是非よろしく）。

**サヴェリエフ・イゴリ（大会担当）**

①名古屋大学大学院国際開発研究科

②

③東北アジア近現代史、東北アジアにおける人の国際移動

④今年の年次大会が名古屋で行われますので、ロシア史研究会の活性化に少しでも貢献したいと思います。

**鈴木義一（事務局長）**

①東京外国語大学

②

③ロシア・ソ連経済史

④前委員会の路線を受け継いで会務・業務の効率化を進め、必要に応じて情報技術の利用を促進したいと思います。

⑤Web ページのデータをブログで更新する予定です。

**立石洋子（雑誌編集担当）**

①東京大学大学院法学政治学研究科博士課程

②

③ソ連の歴史学と政治

④研究会の活動に少しでも貢献できるよう努力したいです。

⑤『ロシア史研究』への御投稿をお待ちしております。

**崔 在東（会計担当）**

①慶應義塾大学経済学部

②

③19世紀後半20世紀初頭のロシア経済

④引き続き会計を担当することになりましたが、ロシア史研究会の活性化に少しでも貢献できるように頑張りたいと思います。

⑤会費はできるだけ年度初めに納めるようお願い致します。

**土肥恒之（委員長）**

- ①一橋大学大学院社会学研究科
- ②
- ③近世社会史、史学史
- ④「新委員長挨拶」を参照

**中嶋毅（雑誌編集長）**

- ①首都大学東京大学院人文科学研究科
- ②
- ③ロシア近現代史
- ④会誌をできるだけ遅滞なく発行できるよう努力したいと思います。会員諸氏の更なるご協力をお願い申し上げます。

**野部公一（総務担当）**

- ①専修大学経済学部国際経済学科
- ②
- ③ソフホーズ史、CIS農業改革
- ④微力を尽くします。

**半谷史郎（名簿担当）**

- ①なし ②
- ③専門分野：ソ連の民族政策・文化政策
- ④ひきつづき名簿係を担当することになりました。地方在住のため、東京での委員会業務には参加できませんが、その分、在宅でのデータ整理はしっかりやりたいと思っています。
- ⑤登録事項に変更があった場合は、速やかにご連絡ください。昨年からの発送に宅急便会社のメール便を使っています。特に引っ越された場合、こちらに住所変更の連絡をしていただかないと、郵便物がお手元に届かない恐れがあります。

**ロシア史研ニューズレター**

第 69 号 2008 年 2 月 25 日発行

編集・発行 ロシア史研究会委員会  
〒183-8534

東京都府中市朝日町 3-11-1  
東京外国語大学外国語学部  
鈴木義一研究室気付